

令和7年度 第2回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時：令和7年（2025年）11月14日（金） 15時～16時35分

場所：中央図書館 多目的室

議事次第の通り、議事を進行

議事次第1「第5次鎌倉市子ども読書活動推進計画案について」

議事次第2「アクションプラン案について」（資料2）（資料3）

質疑応答。

（会長）「教育振興基本計画（案）」に“安心安全で豊かな学校教育環境の整備”の中に「学校図書館の充実」がはいって大変うれしい。何か質問はあるか。

（委員）松尾市長が再選された。新市庁舎について御成町と深沢の二拠点化の方針を打ち立てていることについて、図書館に影響はあるのか。

（事務局）御成と深沢で機能をわけることになったが、図書館自体は現市庁舎の跡地の予定であり、議会機能が御成町に残る場合も、民間に貸し出す部分を調整するので、図書館の面積が狭くなるといった影響は特にない、と聞いている。現在の業務は中断しており、年明けから動きがある。今のところ変更はないと考えているが、教育委員会や学校関係がどこに行くのかなど、未定な部分も多い。

（委員）「こどもと本や情報をつなぐ人を適正に配置」の項目に出てくる、キャラクター「かますけ」は調べてみると「こどもほんしえるじゅ かますけくん」とあるが、正式名はどちらか？

（事務局）子どもたちの投票で「こどもほんしえるじゅ」として決めて、「かますけくん」としていたが、使用中で、性別を特定しない「かますけ」とした。

（委員）1（1）2「学校図書館の収集方針や選定方針を学校間で共有し、蔵書内容を充実させる」に関連して。鎌倉市外の学校の図書館に関わっている方が、独断で選書をしたり、除籍を行い、よい古い本がなくなっているという例を聞いた。この項目があり、複数の目で見ていると安心しているが、鎌倉市の学校の除籍状況について知りたい。学校には、いい本をきちんと選べる人がいてほしいと思う。

（事務局）学校長のもと、運営している学校図書館なので、何人かで行われているという前提かと考えられる。市の図書館からも、施設を訪問した際にアドバイスはして

いるが、介入はしていない。学校現場からいかがか。

（委員）学校司書は各校に１人だが、司書教諭もいる学校もあるし、学校図書館長は校長となるため、少なくとも校長と相談するのが一般的だと思う。

（委員）電算化を行った際に、どの学校も大きく除籍を行った。そのあとはさほど活発に行われていないかもしれない。調べ学習の本は、社会情勢や情報の新しさ等から調べ学習に適さないものなどを除籍した。学校司書や、司書教諭など相談しながら除籍しているので、一人で決めることはない。

（委員）１年に１回、学校司書が除籍したいものを相談しにくる。学校の印があると、そのまま捨てられず、図書委員に手伝ってもらっている。寄贈本も多い。スペースを作らないと受入れられず、入れるか、入れないか、常に考えている。（資料刷新の）必要性については理解しているが、教科の本をそろえるにはスペースが必要であり、入れ替えるのが難しい。

（委員）現場の先生が悩まれているのがよく分かった。

（委員）５（１）１「ゾーニングについての研修を実施について。ゾーニングの研修について講師の目途は立っているのか。興味深く思っているので、ぜひ受講したい。朝日新聞の日曜版に岡本真氏の記事があったり、最近「クローズアップ現代」で岐阜のメディアコスモスが特集されていたり「にぎやかな図書館」というキーワードがいくつか耳に入ってきた。野毛山の横浜市中心図書館の親子コーナーも行って見たが、見方によっては親子連れが隔離されているようにも思えた。隔離ではなく、親も図書館を楽しむようなゾーニングを期待する。

（事務局）候補として考えているのは、日本図書館協会から『図書館施設論』をだされている研究者。専門が、図書館や福祉施設の建築計画である。対象は図書館職員と前回の連絡会議でニーズがあることがわかったので、連絡会議委員のみなさんにはお声がけできるようにしたい。

（会長）隔離ではない形でゾーニングを考えたい。隔離ではない「にぎやかな図書館」というのが大事。

（事務局）静かに本を読みたい、という利用者と、子育て空間との複合化をどのように鎌倉にあてはめていくのか、以前この連絡会議でも話題になったが、学校で目指されているインクルーシブな考え方が必要だと思っている。

（会長）どのような図書館を考えているのか、理念からゾーニングのことも含めて、図書館利用者にアピールする必要がある。いろいろな声が出てくると思うが、ここは

子どもの読書を考える場なので、子どもにとってどのような図書館がいいか、ぶれずに考えていきたいと思う。

（委員）にぎやかな図書館と利用しやすい図書館と表記されているが、勉強のために利用している中高生世代にとっては、市の図書館の開館時間の拡大も、居場所として考える上で大切だと思う。開館時間の拡大は検討事項として考えているのか。

（事務局）自習の場として考えると、現在、青少年課が各行政センター内等に設置している中高生の自習の場`わかたま`はもう少し長く滞在できる。中高生だけでなく、大人も利用している。図書館としては、司書がいてわからないときに応えてもらえるという時間以外に、警備員だけにして長時間開館にするということも考えられる。どのような人を配置するか、また光熱水費の支出をどう考えるか等、総合的に検討し、何を選択かということになるかと思う。

（委員）全体的にみてスペースがないとできないと思うことが多く、限られた中で行っていくのは難しいと思った。他市の事例を見ていると、図書館が多世代交流の場になっている例が多くあり一緒に活動するやり方なども考えるのはどうか。今回の子ども読書の計画では多世代交流についての鎌倉市図書館の立ち位置が見えてこない。今後、子どもたちが図書館をベースに世界を知っていくという経験ができるようにそういうことへの記載もあったほうがよいと思う。

また、取組の数を減らしたということでもとめられたのはよかったと思うが、具体的なものが減ったので、検証するのが大変かもしれない、と感じた。

（事務局）多世代交流の場として、あるいは目的を持って来館する場として、等多様なニーズがあると思う。

（事務局）複合化することで、新しいきっかけができ、企画立案も行っていけるかと思う。図書館の方針を踏まえながら、これまでも外国にルーツのある方への事業、行政書士会講座などの企画を行っているが、スペースがない現状がある。

（委員）そういう交流が生まれていく土壌があればよいと思う。

（会長）4（3）7になるのか、家庭文庫はどうなっている？

（委員）家庭文庫とは？

（事務局）自宅の本棚を近所の子どもたちに開放している人（団体）のこと。家庭文庫はいつとき少なくなったが、その後、市内にもいくつかまたできたと聞いている。この項目では、鎌倉在住の作家との交流イベントなどを考えていた。地の利を生かした出版文化をもりあげていく。

（委員）家庭文庫について補足すると、市立図書館がなかったときに、家庭文庫をつくり、行政に働きかけるという時代があった。行政が地域の図書館を作り、育てていくなかで、家庭文庫が減っていったように思う。今の時代の家庭文庫は、同じように本を置いて子どもが借りたいというのを後押ししているが、子どものニーズにあわせて一人一人に手渡しができる。

議事次第3 情報交換

（会長）私は連絡会議に出席するようになり、図書館が気になるようになったが、みなさんどうでしょう。

（委員）11月12日に学校司書の研修を行った。一人職で疎外感を持っている人もいる。学校が何を望んでいるのか、学校の先生と一緒にいることで、交流できる場を作りたいと思い、昨年度から学校司書と先生方と行っている。

（委員）運営していく上で学校司書とかかわっているが、司書教諭として仕事をする時間がなく、図書館に関わる時間の捻出が難しい。学校司書がいつでも話ができるわけではないので、交流の場はありがたい機会になっている。

（委員）先日その研修で聞いた小学校の学校司書の話はおもしろかった。学校司書の勤務日は中学校週1程度、小学校は週2～3程度ある。中学校より勤務日が多いので、色々できることがよくわかる。もう少し時間がないとレイアウトの変更ができない。勤務日が増えると子どもたちにも還元できると思う。居場所としての図書館（放課後図書館では20人ぐらい勉強している）昼休みも話をしたり、折り紙をするなど増えてきている。多少うるさくても注意しないようにしているので、敷居が低いほうが来館者が増える。本以外のことで図書館利用を増やすために案内している。

（委員）子どもが小学校の読書週間のイベントで、本の中にクイズをはさんで、クイズにこたえたら、おみくじをひけるというのをやっていた。それが大変人気となって学校図書館がぎゅうぎゅう詰めになっているようで、工夫して子どもたちのアイデア、楽しみ方を共有している。

（委員）こどもみらい部で、こどもが集う場所を見に行っている。国立市にある複合施設「矢川プラス」を見に行ったが、動線が自然と興味をもって「解きたくなる数学」→「道ばたの四季」→と読んでみようかな、と思うような並び方になっている。入口に水槽もあり、きっかけになるようなものが置いてある。ゾーニングだけではなく、動機づけがあるなど、理屈だけではなく動けるようなしかけもあってよかったと

思う。

（委員）図書館ボランティアを1年ぶりぐらいに行ったら、図書館が幾分か変わっており、随所に飾られていた折り紙作品は、先ほどのお話と重なり、背景までうかがい知ることができた。

保護者と学校司書の先生と話してそれがきっかけにコーナーを作るようなこともある。また、小学校のボランティアでよみきかせで6年生に『注文の多い料理店』を行った。少し長くて、朝読の時間をこしてしまう作品だったので、先生と話合って超過してもよい、となった。熱意で人が動くことを実感した。子どもたちの受けも良く、関われるとよくなると思った。

（委員）放課後かまくらっ子を青少年課では所管している。プレイルームや図書室などあるが、図書室でマンガでない本を読んでいる子が意外に多いと感じた。このアクションプランがうまくまわっていけば、よりよい方向にむかっていくと思う。

（委員）御成小も深沢小も在任していたことがあり、保護者の朝読書の活動が盛んな小学校で、話を聞いていてよくわかった。学校司書も中学の読書活動推進員は図書館司書の資格がなくてよい、学校図書館専門員は資格が必要など、要件が違っている。学校図書館には、見てくれる人が必要で人員の充実をはかる要望をだしている。居場所として、中学校を中心に、コンピューター室を学べる空間にかえていこうと思っている。学校図書館もセットになっている。読書か居場所かの二極対立ではなく伝えていく。

（委員）由比ガ浜中学校の学校図書館の持ち方を教えてほしい。学校図書館はなく、ブックオフから寄贈してもらった本をおいていると聞いた。由比ガ浜中学校に通うような子にこそ、手渡す司書が必要なのではないかと思うが、どうか。

（委員）校庭も学校図書館もないが、公園や海に出かけたり、市図書館からもいつでも来ていいよと言われ、実際使わせてもらっていて、ここが学校図書館のようになるといいと考えている。

（事務局）由比ガ浜中学校には市図書館を利用してほしいはなしはお伝え済み。授業で多目的室を使いながら、調べ学習をしたこともある。また、本についてはブックオフの他にも図書館でリサイクル本などから選んで渡したりもしていて、ソファなどもあり、くつろげるスペース、図書コーナーのようにになっている。

「NPO 法人まるまーる」との海外ルーツの方も楽しめる行事「世界のことは世界の

おはなし」、手話付きおはなし会、ビブリオバトルの行事案内を行った。連絡会議は年度末にもう1回行いたい。